

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：34305

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03539

研究課題名（和文）国際関係のアポリア問題とその解決方策についての基礎的研究- 理論と実践の架橋

研究課題名（英文）Basic research on aporia of international relations- theory and practice

研究代表者

市川 ひろみ (Ichikawa, Hiromi)

京都女子大学・法学部・教授

研究者番号：50281754

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、国際関係をアポリアの観点から捉えることで、国際関係の問題状況をより一層精確に捉え、問題状況の解決を模索するものである。アポリアを「解決困難な難問」としてのみ捉えるのではなく、本研究では、アポリアという概念が有する別の機能、すなわち、現実の問題状況をより丁寧に分析する機会を提供し、問題状況の解消を目指す精確な分析や活発な議論を促す機能に着目し、解決策を探求するものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、アポリア概念にもとづく分析枠組みを精緻化し、その枠組みを活用して国際関係の分析を行った。これまで見過ごされてきたアポリアの役割に焦点を当てるとともに、アポリアの分析枠組みにもとづく精緻な分析によって、国際関係の問題状況をより一層精確に捉え、問題状況の解決を模索する研究としての意義がある。現実の国際社会で、「解決困難な難問」に直面している実践家にとっては、アポリアの観点から解決への方途を示唆することが期待される。

研究成果の概要（英文）：This research aims at more accurately grasping the situation of international relations by looking at international relations from the perspective of aporia, and seeking to solve the situation. Rather than just treating aporia as a “difficult to solve-problem”, this study provides another function of the concept of aporia, that is, an opportunity to analyze the actual situation more carefully and find ways to solve the problem. It seeks solutions by focusing on the precise analysis and the function that encourages discussions among researchers.

研究分野：国際関係論・平和研究

キーワード：アポリア 国際関係論 兵役拒否 ジェンダー 平和構築 歴史認識 ポストモダン 国際政治思想

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

国際関係論のアポリアについての先行研究は、国際関係にアポリアの問題が存在していることを詳細に論じており、きわめて重要である。だが、先行研究は、国際社会において異なる複数のアポリアが同時に存在していることの意味について、深く考察しているとはいえない。本研究では、これらの点に着眼して、国際関係のアポリア研究をさらに深化することを試みた。

基盤研究 C 「国際関係論における内発性・土着性・自立性の基礎的研究」(平成 24～26 年度、研究代表者：初瀬龍平、本応募研の研究代表者である市川は編者の一人として『国際関係論の生成と展開 - 日本の先達との対話』ナカニシヤ出版、2017 年を刊行した)を通じて、国際関係のイシューにはアポリアという克服すべき根源的な問題があることを再認識した。また、研究分担者である高橋良輔は国家主権のアポリアを、杉浦功一は民主化のアポリアを、佐藤史郎は核兵器のアポリアを、池田丈佑は人権のアポリアを、初瀬は東京裁判のアポリアをすでに指摘していることが明らかとなった。研究代表者は、アポリアに詳しい上記メンバーと、先行研究がまだ扱っていない国際関係のアポリアを抽出できるメンバーが協力して、国際関係のアポリアの理論研究と事例研究を行うことが重要であり、またアポリアの解決策を検討する必要があると考えるに至った。

2. 研究の目的

国際関係が論じられる場合もそうであるが、近年、「アポリア」という言葉が頻繁に用いられるようになってきている。様々な問題が絡み合い、より複雑化しつつある現代社会の様相を表す際に、「解決困難な難問」(原義は「行き詰まり」)という意味で認識されているアポリアという言葉が、便利だからである。しかし、この言葉は、解決困難であることを強調することによって、問題解決に向けた努力を放棄させてしまう傾向をもつ。他方でアポリアを、その起源であるギリシア時代に遡って捉え直してみると、本来アポリアという言葉には、「行き詰まり」を打破するために多様な見解や見過ごされている事実などを総合して精査する機会を提供するもの、といった意味合いも含まれていた。現代のアポリア論に欠けているのは、この視点からの分析である。

本研究は、国際関係のアポリアを理論と事例の両面から研究するとともに、アポリアの解決策を検討した。まず、本応募研究は、事例研究を通じて、(1) 国際関係のアポリアを発掘し、その特徴を明らかにするとともに、分類化も試みる。本応募研究では、アポリアをアイロニー(困惑：当初の想定にない帰結)、アンチノミー(二律背反)、ディレンマ(葛藤)、パラドクス(逆説：当初の想定と反対の帰結)に分類して、事例研究を深める。また、本応募研究は、(2) 発掘されたアポリア間の関係性を明らかにする。異なる複数のアポリア間に相互補完や対立などの関係が見出せるのかを検討する。さらに本応募研究は、国際政治理論、政治哲学、正義論の観点から、(3) アポリア研究の理論を構築する。

それゆえ本研究は、アポリア研究に新たな知の基盤を提供するという学術的意義をもつ。そして、本研究は、国際関係のアポリアを理論的かつ事例的に検討したうえで、国際社会が直面するアポリアの解決方途を模索することから、政策決定者らに実践的な知を提供するものである。また、研究者は、アポリアと対峙することで、自分自身の研究テーマについて、自らの主張と見解がどのような位置づけにあるのかを再確認し、それとともに、自分と主張と見解が異なる研究の成果を正しく位置づけ、その学問的意義を受容することへの示唆が得られると考えられる。

3. 研究の方法

全体を総括班、理論班、事例班（「戦争と平和をめぐるアポリア」と「人権をめぐるアポリア」）とに分け、京都女子大学において研究会を開催した（2016年3回、2017年2回、2018年4回、2019年2回）。研究会では本研究メンバー（研究分担者・研究協力者）間での議論のみならず、ピアレビューとして、竹中千春（立教大学）、眞嶋俊造（広島大学）、井上健（国際協力機構国際協力専門員）を招いて、本研究についてコメントいただいた。日本国際政治学会2018年度研究大会では、＜平和研究＞分科会に「平和をめぐるアポリア」として報告者2名（研究代表者市川ひろみおよび研究分担者杉浦功一）、コメンテーター（研究協力者定形衛）、司会（研究分担者松田哲）を企画・報告した。この際に会場からの質問・コメントを得た。

4. 研究成果

2020年度には、京都女子大学の出版助成を受け書籍を刊行し、アポリアの分析枠組みを活用した国際関係分析から得られた知見を、研究者、学生、一般読者に公開する予定である。

本書は、アポリア概念にもとづく分析枠組みを精緻化し、その枠組みを活用して国際関係の分析を行う。それにより、国際関係の問題状況をより一層精確に捉え、問題状況の解決を模索する。これまで見過ごされてきたアポリアの役割に焦点を当てるとともに、アポリアの分析枠組みにもとづく精緻な分析を行う本書は、先駆的かつ重要な貢献をなす国際関係の研究書となろう。

本書の出版計画は以下の通り。

・書名：『国際関係論のアポリア - 権力と生存をめくって -』（仮）

・編者：松田哲・市川ひろみ

・ページ数：300頁以内（索引を含む）

・出版社：晃洋書房

・発行予定：2021年1月

・目次：

序章

1. 「総論」・・・・・・・・・・初瀬龍平（元京都女子大学教授・神戸大学名誉教授）

2. 「補論 - アポリアとは何か - 」・・・・・・・・・・上野友也（岐阜大学准教授）

国際関係論のアポリア

1. 「クラシカル・リアリズム」・・・・・・・・・・高橋良輔（青山学院大学教授）

2. 「国際政治思想 - 理想論と非理想論 - 」・・・・・・・・・・松元雅和（日本大学准教授）

3. 「新自由主義経済とグローバル化」・・・・・・・・・・松田哲（京都女子大学教授）

4. 「歴史認識（植民地支配）」・・・・・・・・菅英輝（大阪大学客員教授・九州大学名誉教授）

5. 「ポストモダン」・・・・・・・・・・清水耕介（龍谷大学教授）

6. 「アポリアの起源」・・・・・・・・・・池田丈佑（富山大学准教授）

事例から見たアポリア

1. 「民主化支援・平和構築」・・・・・・・・・・杉浦功一（和洋女子大学教授）

2. 「人道支援・人道的介入」・・・・・・・・・・上野友也（岐阜大学准教授）

3. 「難民」・・・・・・・・・・杉木明子（慶應義塾大学教授）

- 4 .「戦時性暴力(ジェンダー)」・・・・・・・・・・戸田真紀子(京都女子大学教授)
- 5 .「ヒバクシャ」・・・・・・・・・・佐藤史郎(東京農業大学准教授)
- 6 .「兵役拒否」・・・・・・・・・・市川ひろみ(京都女子大学教授)

終章

- 1 .「終章」・・・・・・・・・・初瀬龍平(元京都女子大学教授・神戸大学名誉教授)

アポリアという言葉を用いる先行研究の多くには、「解決困難な難問」であることを強調するだけで終わってしまい、難問解決策の模索を放棄してしまうという傾向が見られた。これは、海外の先行研究においても同様である。それに対し本書では、アポリアという概念が有する別の機能、すなわち、現実の問題状況をより丁寧に分析する機会を提供し、問題状況の解消を目指す精確な分析や活発な議論を促す機能(いかなれば触媒としての機能)に着目することによって、先行研究に見られる欠点を克服することを目指している。その意味で本書は、国際関係に存在する「解決困難な難問」の解決策を探求しようとする、アポリアの分析枠組みにもとづく国際関係研究の書である。

そのような本書に課せられる課題は、3つある。第1の課題は、アポリアの分析枠組みを明確化することである。第2の課題は、アポリアの分析枠組みを用いて、現実の国際関係に存する問題状況に対する精確な分析を行うこと、さらに、そのような分析から得られる結果をもとに、問題状況の解決策を模索し直し提示することである。そして第3の課題は、以上の分析から得られる新たな知見を総合し、国際関係の全体を規定するようなアポリアを発見すること、可能であればその分析を試みることである。

本書の構成は、3つの課題それぞれに対応したものとなっている。第1の課題に対応する「序章」では、アポリア概念にもとづく分析枠組みの明確化を行う。ここでは、「現実を精確に理解するための思考力の鍛錬を要求する難題」(ソクラテス)といった意味でアポリアを捉えることとし、アポリアの論理構造を整理して、アポリアを事例分析に応用するための分析枠組みを提示する。第2の課題に対応するのは、本論に当たる「 」と「 」に収められた諸論文である。ここでは、アポリアの分析枠組みを応用した国際関係の分析を行う。が対象とするのは、国際関係の問題状況を取り巻く理論的・思弁的な側面に関わる問題であり、 が対象とするのは、より具体性を帯びた問題である。いずれの章においても、国際関係における問題状況を生み出しているアポリアの視点に立った論理構造の把握、さらには問題構造の解決策の模索と提示とを試みる。そして、最後に第3の課題に対応するのが、「終章」である。ここでは、本書の議論をマクロな視点に立って総括したうえで、国際関係全体を貫くようなアポリアが存在しているのかどうかを考察する。その際には、 の各章に共通して現れてくる、権力と生存の場を取り巻くアポリアに着目することになるであろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 菅英輝	4. 巻 No. 935
2. 論文標題 「トランプ政権と米国外交の今後」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『学士會会報』	6. 最初と最後の頁 17-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 戸田真紀子	4. 巻 13
2. 論文標題 ジェンダーと紛争・家父長制社会がもたらす暴力の連続性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代社会研究科論集	6. 最初と最後の頁 45-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 清水耕介	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 The Genealogy of Culturalist International Relations in Japan and Its Implications for Post-Western Discourse',	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 All Azimuth: a journal of foreign policy and peace	6. 最初と最後の頁 121-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20991/allazimuth.326972	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 清水耕介	4. 巻 16(1)
2. 論文標題 'DoTime and Language matter in IR? Nishida Kitaro's tragic story of philosophy and politics in non-Western discourse'	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 , Korean Journal of International Studies,	6. 最初と最後の頁 99-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.14731/kjis.2018.04.16.1.99	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松元雅和	4. 巻 21
2. 論文標題 テロと戦う論理と倫理	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 論究ジュリスト	6. 最初と最後の頁 35-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松元雅和	4. 巻 17
2. 論文標題 規範研究における実証研究の役立て方 反照的均衡を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 政治思想研究	6. 最初と最後の頁 98-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉木明子	4. 巻 190
2. 論文標題 ケニアにおける難民の「安全保障化」をめぐるパラドクス	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 114-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kosuke Shimizu	4. 巻 16 (1)
2. 論文標題 Do Time and Language Matter in IR?: Nishida Kitaro's non-Western discourse of philosophy and politics	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Korean Journal of International Studies,	6. 最初と最後の頁 99-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kosuke Shimizu	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 The Genealogy of Culturalist International Relations in Japan and Its Implications for Post-Western Discourse	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 All Azimuth	6. 最初と最後の頁 121-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kosuke Shimizu	4. 巻 18(4)
2. 論文標題 'Reflection, the Public, and the Modern Machine: An Investigation of the Fukushima Disaster in Relation to the Concepts of Truth and Morality'	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 536-551
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川ひろみ	4. 巻 552
2. 論文標題 兵士の視点から考える戦争 戦場の「被害者」と選択的兵役拒否	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 平和運動	6. 最初と最後の頁 2-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉浦功一	4. 巻 第57集
2. 論文標題 ルワンダのガバナンスに対する国際関係の影響 - 総合的な検証へ向けた一試論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 和洋女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 41-52頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18909/00001405	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉浦功一	4. 巻 第3号
2. 論文標題 グローバル・ガバナンスの「民主化」は可能か？	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 グローバル・ガバナンス	6. 最初と最後の頁 18-33頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋良輔	4. 巻 232
2. 論文標題 国際協力NGOのアドボカシー・ポリティクス シンボルからアレゴリーへ	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 生活経済政策	6. 最初と最後の頁 24-28頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 戸田真紀子
2. 発表標題 Development Goals and zero tolerance vs patriarchal mindset in the local community in Kenya and the academic societies in Japan
3. 学会等名 1.16th ASIA PACIFIC CONFERENCE (2018 AP CONFERENCE) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 戸田真紀子
2. 発表標題 国際社会のルールとジェンダー - SDGsとFGM -
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水耕介
2. 発表標題 'Buddhism, Cosmology, and Great East Asian Co-prosperity Area: Multiculturalism and Nationalism in the Pre-war period Japan',
3. 学会等名 International Studies Association Annual Conference at San Fransico (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水耕介
2. 発表標題 'Towards a Critical Spatio-Temporal IR?: With an experience of the Kyoto School' Global IR and non-Western IR
3. 学会等名 Chinese Foreign Affairs University (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水耕介
2. 発表標題 'Towards a Critical Spatio-Temporal IR?: Post-Western IR and the question of ethics'
3. 学会等名 Doing IR Differently Workshop Universidad San Francisco de Quito
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水耕介
2. 発表標題 'Towards a Critical Spatio-Temporal IR?: with an experience of the Kyoto School ,
3. 学会等名 International Studies Annual Conference at Toronto
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉木明子
2. 発表標題 Repatriation as the Most Preferred Durable Solution for Refugees? Its Impact on Human Security; and Durable Peace
3. 学会等名 日本平和学会秋期研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤史郎
2. 発表標題 「『核兵器の非人道性』の意義と課題」
3. 学会等名 日本平和学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉浦功一
2. 発表標題 平和とデモクラシーの間のジレンマの検証 『神話』は崩壊したのか？」
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 市川ひろみ
2. 発表標題 兵役拒否をめぐるアポリア
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉浦 功一
2. 発表標題 「民主化支援の今日的ディレンマ 国際社会から見た現状と課題」
3. 学会等名 日本平和学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masakazu Matsumoto
2. 発表標題 Ethics in Asymmetric Warfare: Why War Conventions Are Regularly Violated?
3. 学会等名 Athens Institute for Education and Research, 15th Annual International Conference on Politics & International Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 清水 耕介
2. 発表標題 日常性の国際政治
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kosuke Shimizu
2. 発表標題 Temporalising the Space-oriented Discipline: A Challenge with the Kyoto School Philosophy
3. 学会等名 Fifth Global International Studies Conference
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 杉浦功一
2. 発表標題 ルワンダのガバナンスに対する国際関係の影響の検証
3. 学会等名 国際開発学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 高橋良輔
2. 発表標題 アドボカシーの形態学 国際協力NGOの葛藤」
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shiro Sato
2. 発表標題 Nuclear Disarmament and Nuclear Umbrella in US-Japan Relations
3. 学会等名 European Association for Japanese Studies (EAJS)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐藤史郎
2. 発表標題 生存基盤指数 温帯パラダイムを越えて
3. 学会等名 グローバル・ガバナンス学会（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 菅英輝	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 346
3. 書名 冷戦期アメリカのアジア政策	

1. 著者名 松元雅和・井上彰編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 264
3. 書名 『人口問題の正義論』	

1. 著者名 杉木明子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 204
3. 書名 国際的難民保護と負担分担 新たな難民政策の可能性を求めて	

1. 著者名 菅英輝	4. 発行年 2016年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 352頁
3. 書名 冷戦と「アメリカの世紀」 アジアにおける「非公式帝国」の秩序形成	

1. 著者名 初瀬龍平、戸田真紀子、松田哲、市川ひろみ編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 387
3. 書名 国際関係論の生成と展開 日本の先達との対話	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松元 雅和 (Matsumoto Masakazu) (00528929)	日本大学・法学部・准教授 (32665)	
研究分担者	上野 友也 (Kamino Tomoya) (10587421)	岐阜大学・教育学部・准教授 (13701)	
研究分担者	初瀬 龍平 (Hatsuse Ryuhei) (40047709)	京都女子大学・法学部・客員教授 (34305)	
研究分担者	杉木 明子 (Sugiki Akiko) (40368478)	慶應義塾大学・法学部(三田)・教授 (32612)	
研究分担者	佐藤 史郎 (Sato Shiro) (40454532)	東京農業大学・生物産業学部・准教授 (32658)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	池田 文佑 (Ikeda Josuke) (50516771)	富山大学・学術研究部教育学系・准教授 (13201)	
研究分担者	菅 英輝 (Kan Hideki) (60047727)	京都外国語大学・外国語学部・教授 (34302)	
研究分担者	清水 耕介 (Shimizu Kosuke) (70310703)	龍谷大学・国際学部・教授 (34316)	
研究分担者	杉浦 功一 (Sugiura Koichi) (70453470)	和洋女子大学・人文学部・教授 (32507)	
研究分担者	高橋 良輔 (Takahashi Ryouzuke) (70457456)	青山学院大学・地球社会共生学部・教授 (32601)	
研究分担者	松田 哲 (Matsuda Satoru) (80319441)	京都女子大学・現代社会学部・教授 (34305)	
研究分担者	戸田 真紀子 (Toda Makiko) (40248183)	京都女子大学・現代社会学部・教授 (34305)	